

日本統治下台湾史関係写真集一斑（改訂稿）  
一片倉佳史氏『古写真が語る 台湾 日本統治時代の 50 年 1895-1945』  
（祥伝社、平成 27 年 5 月 10 日刊）刊行に寄せて—

（令和 4（2022）年 8 月 2 日（火）現在）

（補正経緯）

HP 初出: 平成 27（2015）年 7 月 16 日（木）初稿作成  
令和 4（2022）年 8 月 2 日（火）改訂稿作成

世に各地の「歴史散歩」とか「歴史ガイド」と称する類の書籍が多く出ている。日本統治下台湾についても、平成年代に入って松本暁美・謝森展編著『臺灣懷舊 1895-1945 THE TAIWAN 繪はがきが語る 50 年』（台湾・創意力文化事業、1990（平成 2）年 11 月刊）が出て、大きな評判を呼んだ。その後、当時の史跡や建造物等に関して、例えば片倉佳史氏<sup>1</sup>（1969～）『台湾 日本統治時代の歴史遺産を歩く』（戎光祥出版、平成 16 年 8 月 20 日刊。『台湾協会報』第 607 号（平成 17 年 4 月刊）に当時の梁井新一理事長（1925～2012）の御懇篤な紹介がある。）、邱景一・荻野純一両氏他『台北歴史散歩 日本統治の足跡と近現代史を探る』（日経 BP 出版センター、平成 20 年 7 月 7 日刊）、王恵君・二村悟両氏『図説台湾都市物語 台北・台中・台南・高雄』（河出書房新社、平成 22 年 2 月 28 日刊）、莊英明氏『台北老街』（台北・時報文化出版、1991（平成 3）年 7 月 1 日刊）、葉肅科氏『日落台北城』（台北・自立晩報社文化出版部、1993（平成 5）年 9 月刊）等多数の著作が日台両地で刊行されている。

片倉佳史氏は、斯界の第一人者であって、夙に 1990 年代後半台湾に居を移され、多くの台湾関係書籍を出されてきたが、中でも『台湾に生きている「日本」』（祥伝社新書、平成 21 年 3 月 5 日刊、定価 900 円+税）はロングセラーとなっている。ちなみに、同氏は、かつて平成 18（2006）年 6 月 16 日開催の台湾協会主催講演会において、「在台湾フリーランスライター」の肩書で「台湾に残る日本統治時代の遺構を訪ねる」と題するスライドを使っての講演をされ、出席会員に多大の感銘を与えられた（『台湾協会報』第 622 号〈平成 18 年 7 月刊〉に全講演内容を収録。）が、その後、『台湾協会報』で「台湾に残る日本統治時代の建造物を訪ねる」を二カ年にかけて連載された（①～④・完、平成 21（2009）年 8 月～同 23（2011）年 7 月刊）。更に、最近では『台湾協会報』第 700 号（平成 25 年 1 月刊）～第 707 号（同年 8 月刊）に、「鉄道でたどる台湾今と昔」を八回にわたって寄稿され、これまた反響を呼んだところである。

今般同氏が上梓された『古写真が語る 台湾 日本統治時代の 50 年 1895-1945』（祥伝社、平成 27 年 5 月 10 日刊、定価 1,800 円+税）は、巻頭に「麗しの島・なつかしの台湾風景」、  
「台湾に生き続ける日本統治時代の歴史遺産」を置き、次いで、「台北」、「台湾北部」、「台湾中部」、「台湾南部」及び「台湾東部」に分けて、台湾全島各地域の主要な名所、建造物

<sup>1</sup>（令和 4（2022）年 8 月 2 日追加）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%87%E5%80%89%E4%BD%B3%E5%8F%B2>

等の写真を網羅し、それぞれに懇切な解説を加えている。これにより日本統治時代台湾の全貌をコンパクトにとらえることができることから、本書は極めて価値ある台湾史研究書であると思われる。

なお、旅行、地理、民俗等の視点から台湾を紹介した資料を収録した基礎的文献集として、栗原純・鍾淑敏両氏監修・解説『近代台湾都市案内集成』（全 20 巻、ゆまに書房、平成 25 年 7 月～同 27 年 5 月刊）があることを附記しておく。

〈<http://www.yumani.co.jp/np/isbn/9784843342299>〉

\*\*\*\*\*

## 【附録】

本 HP 別稿日本統治下台湾警察史関係抄

- ・「法制史学者著作目録選」中「日本統治下台湾警察史コーナー」参照（下記はその一部）  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉
- ・台湾総督府警察官及司獄官練習所覚書  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/renshujo.pdf>〉
- ・旧台湾警察諸警友会の回顧  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keiyukai.pdf>〉
- ・明治 35（1902）年台北刊行の『警察監獄学雑誌』検討一斑  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugaku.pdf>〉
- ・東川徳治氏検討一斑—江戸恵子氏「楊舟 東川徳治年譜考」補遺—  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikawa.pdf>〉
- ・姉齒松平判官(1885～1941)関係資料抄—日本統治下台湾法制史の一齣—  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/aneha.pdf>〉
- ・『台湾警察協会雑誌』第 75 号（大正 12（1923）年 8 月 25 日刊）の再発見について（—『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録』補遺—日本統治下台湾警察史の一齣—（本稿）  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saihakken.pdf>〉
- ・中島利郎教授編『台湾地方行政』総目・人名索引[試行本]』（緑蔭書房、平成 21 年 9 月 30 日刊）の刊行について[紹介]（本稿）  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakajima001.pdf>〉
- ・リゼンドル(ル・ジャンドル)について—台湾出兵、十五世市村羽左衛門・関屋敏子によせて—  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/legendre.pdf>〉
- 目黒五郎・江廷遠共著『現行保甲制度叢書』（昭和 10 年初版刊）自序(再掲)—日本統治下台湾保甲制度検討の一として—  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/meguro.pdf>〉

・日本統治下台湾史関係写真集一斑一片倉佳史氏『古写真が語る 台湾 日本統治時代の50年 1895-1945』(祥伝社、平成27年5月10日刊)刊行に寄せて一(本稿)  
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/katakura.pdf>>

(了)